

# 誌上ひとりワークショップ (中編)

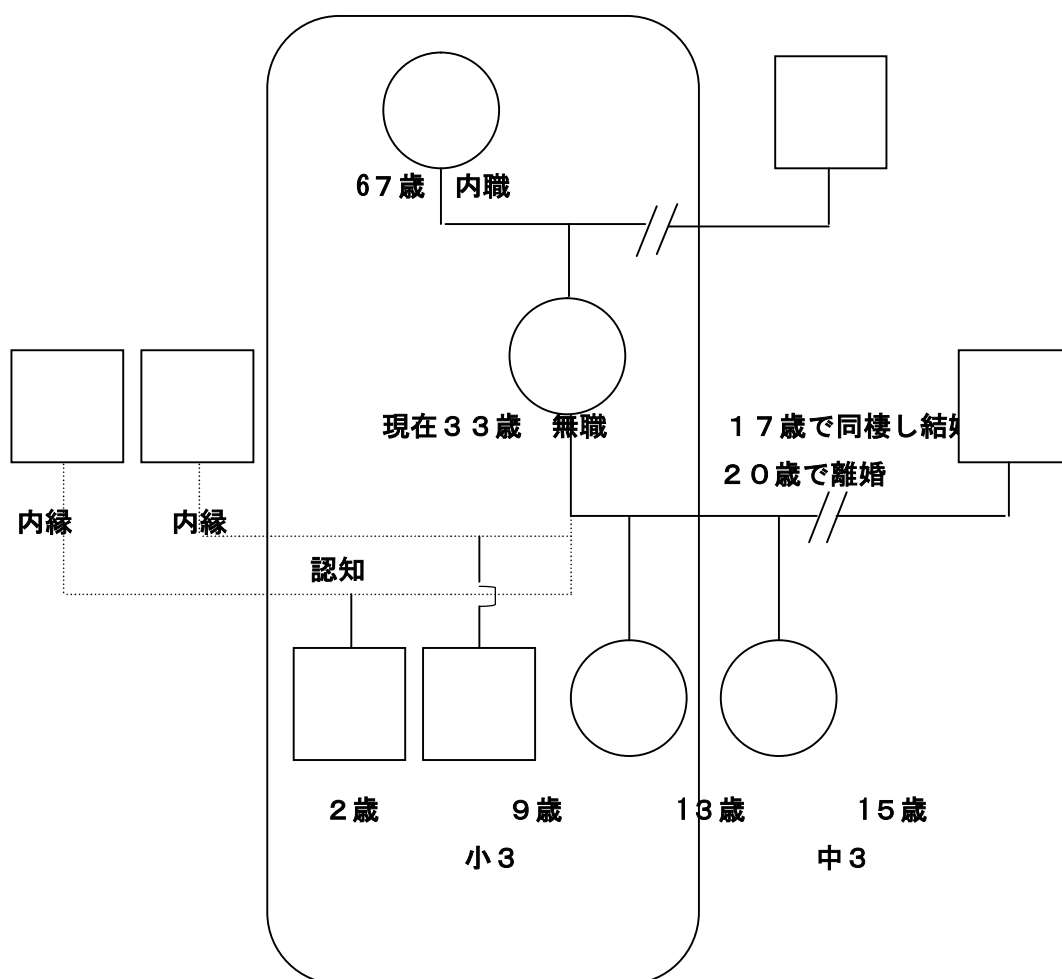
～家族を知る、家族を見立てる～

岡田 隆介

広島市子ども療育センター精神科

「前号に引き続いて、誌上ひとりワークショップを進めていきたいと思います。今回は、お手元にお配りしてあるフォーマットに従って「家族を知る」手順をすすめていきます。3ヶ月も前の話なので、ここでもういちど事例検討のためにアレンジした症例をおさらいしておきます」。

演習事例の家族関係図 (図1)



「主役は、28歳の男性(A氏)の部屋で、二人でシンナーを吸引しているところを警察に補導された15歳中3の女児です。Aとは結婚の約束をしているといいます。

本児はやせていておとなしく、影が薄い感じです。頭痛や不眠を訴えますが、幻覚・妄想は認めていません。食事は極めて小食。一時保護中の検査では、知的に軽度の障害がありました。

母は広島県で生まれ、小1のとき母方祖父母が離婚、祖母に引き取られました。母も、小学校時代から万引き・深夜徘徊で何度か児童相談所に一時保護されています。中学1年で家出し、臨県に住む祖父のところへ転がり込み、そちらの中学校に転校しました。高校在学中に、暴力団関係者を自称する本児の実父と知り合って同棲し、高校は中退しました。18歳のとき、本児を妊娠して出産。二人目(妹)を出産直後に実父と別れ、祖母を頼って広島県に戻りました。祖父母からすれば、晴天の霹靂です。それ以降、本児の実父・祖父とは音信不通になっています。

翌年、母は二番目の男性と付き合うようになり、毎日足繁く通いました。子育てはせず、本児や妹の世話は祖母がしていました。本児は、二番目の男性を父親だと思っていました。この男性はアルコールが入ると乱暴になりますが、本児に暴力をふるったことはないようです。

祖母は母とは言い争いをしても、孫たちにはやさしかったとのこと。やがて二番目の男性との間に男児が生まれました。しかし認知してもらえず、男性とは疎遠になりました。母は男児(異父弟)を引き取り、祖母に託しました。

このころから徐々に本児が不安定となります。小1半ばには、徘徊・ケンカ・盗み等を頻発するようになりました。しかしながら母はあいかわらず家を空け、学校との連絡はすべて祖母がしていました。当時、本児は『母親とはそういうもの』と思っていたようです。収入は祖母の内職と児童手当で、ギリギリの生活でした。

その後、母は出会い系サイトで知り合った三番目の男性と交際を始めます。そして本児が小6のとき、その男性が住む神奈川県に引っ越しました。本児としては卒業まで祖母宅にいたかったのですが、妹弟が行くというので従いました。

母はその男性とは同居せず、近くに住んで生活保護を受けました。男性は訪問販売をして全国を転々とする人で、不在がちでした。

本児は、この男性を極端に嫌いました。二人きりになることを避け、母親が不在のときは夜遅くまで徘徊しました。この頃、家出・リストカット・怠学等により神奈川県の児童相談所に一時保護されました。しかし児童相談所ではほとんど胸の内を語らず、このときは母が男性と別れることを条件に家庭引き取りとなっています。

やがて、第4子(男児)を産みました。しかし男性が帰ってこないため広島に戻り、また祖母のもとに転がり込みました。神奈川県での2年近くは、実質、次女が異父弟たちのめんどうをみていました。

広島でも、子どもが多く体調もよくないと生活保護を受けました。あいかわらず母はふらふらと出歩き、子育ての中心は祖母でした。家の中はごみが散乱していて足の踏み場もない状態でした。

なお、母と三番目の男性との関係は現在も切れておらず、ときどきあっているようです。あるとき本児は、思い切って男性と別れてほしいと母に頼みました。母からは「そんなことを言うなら、もうあんたの面倒は見ない」と言われ、男性のことは諦めたそうです。

次女と違って、本児は弟たちにきつくあたることはしません。しかし、世話をすることもほとんどありません。次女は言葉遣いや行動が荒々しく異父弟たちにきつくあたったりしますが、面倒はよくみます。そんなわけで本児と次女の関係は悪く、いつもいがみあっています。なお、次女には補導歴はありません。

広島でも夜間徘徊をしているところを補導され、一時保護されました。家庭引き取りとなったものの中学校に溶け込めず、不登校状態となりました。そのころ退学傾向のBと仲良くなり、Bの遊び仲間Aと知り合います。Aは無職で、過去に恐喝や詐欺で2度刑務所に入っています。

やがてAから告白されて受け入れ、Aの家に入り浸るようになります。学校は、A宅からときどき登校する状況でした。母はこのことに無関心で、学校もAのことは把握していませんでした。

やがてAは、母に対し本児と一緒に住みたいと申し入れます。母は『本児がそれを望み、Aが定職に就くならよい』と返答しました。しかしAは仕事をせず生活保護を受け、昼間からシンナーを吸引してフラフラするありさまでした。

本児と一緒に住むようになって、Aのシンナー依存の状況にショックを受けました。そして、自分が頑張るとめなければAは死んでしまうと考え、説得したりシンナーを隠したり必死で努力しました。しかし、Aは思いとどまるどころか一緒に吸いながらセックスをしようとしつこく誘うばかりで、ついに好奇心に負けてしまいました。本児はシンナーを吸うことにためらいながらも、嫌われたくない、帰るところもない、という思いで同棲を続けていたようです。

あるとき、近所の住民からの通報でAの部屋に警察が踏み込みました。Aは現行犯で逮捕、本児は家庭裁判所送致となりました。この後、本児は初めて三番目の男性からレイプ被害を受けていたことを調査官に打ち明けました」。

「ここで、いまからすすめていく“わたしの家族面接”の流れをざっと説明しておきます。表1の①～⑤が家族を知る手順です。前編でやってもらったのは、この①の部分に相当します。今回は②～⑤をやります。⑥の見立てと⑦以降の手立ては、次編以降になると思います。では、さっそく始めましょう」。

表1 わたしの家族面説の流れ

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 家族関係図から不調和や無理な匂いを感じ、結婚・離婚・問題への取り組み等の行動選択を探る。そこから家族への興味がたかまり、尋ねたいことや確かめたいことが明確になる。</li><li>② 家族の不安と怒りを知る。</li><li>③ 解決努力を知り、ねざらいつつ問題を維持する相互作用を探す。</li><li>④ 家族のリスクファクターを知る。</li><li>⑤ 家族の強み(ストレングス)を見い出してエンパワーにつなげる(来て良かった、聞いてもらってよかった、気分が楽になった)。</li><li>⑥ 家族の問題理解・仮説を知り、その背後の枠(人生観、信条)を感じる。</li></ol> |
|--|

#### 4. 家族の不安と怒り

「家族の抱えている不安とか怒りがあらかじめきちんと整理して頭に入っていると、援助対象者のちょっとした心の動きとか言葉からそれを感じることができます。また、的確な質問をすることによって当事者がそのことに気づききっかけにもなります。

この母親は、そして本児は、それぞれどのような不安・怒りを抱えているのでしょうか。そのことを各班で話し合ってください。前編ふう言えば、厚いオーバーコートを脱いでもらうための手続きです。班で話し合ったらフォーマットに書き込んでください。後で、報告していただきます」。

「はい、ありがとうございました。では、各班の意見を聞いてみたいと思います」。

(各班から報告)

「ありがとうございました。みなさんに報告していただいたものをまとめると、表2のようになります」。

表2 母親の不安と怒り

1. 男性との関係が長続きしない孤独感、深いところで影響し合うことへの不安  
(表面的なつきあい)
2. 母親らしくないと祖母や子どもに言われる意味が理解できない怒り
3. いつも経済的基盤が弱いことへの不安
4. 苦悩や怒りに向き合い、心にとどめることへの不安
5. いつも現在しか見ない(未来に絶望をみることへの不安)
6. 行動の原動力にもなっている祖母に対するあてつけ(怒り)
7. 学校・福祉・司法など社会システムへの基本的な不信・怒り
8. 日々自分に似てきて、やがて自分を脅かすかもしれない本児への不安と怒り

「どの程度まで不安を不安として抱えることができる家族かは、まだよくわかりません。ですが、それは援助面接の中でいろんな形をとって表れるはずです。援助者がこうした作業をしておく、そのときに見逃すことなくしっかり受け止めることができると思います。

では次に、本児自身の不安・怒りを考えましょう。

「はい、ありがとうございました。では、各班の意見を聞いてみたいと思います」。

(各班から報告)

「では、表3に本児の不安をまとめてみます」。

表3 本児の不安と怒り

1. 母の都合、大人の都合で転々と住むところが変わった不安と怒り
2. 母の都合で出入りする男性が変わる不安と怒り
3. 母である前に女としてあけっぴろげに振る舞う母への不安と怒り
4. 生きていく上での選択肢のない絶望・怒り
5. レイプへの不安・怒り、自分を守ってくれない母への怒り
6. 自分の力のなさへの無力感、怒り
7. あてにならない学校・児相・大人たちへの不信・怒り
8. 学校の同年齢の生徒への違和感や疎外感・不安
9. はじめての自分の意志で決めたAとの生活が壊れることへの不安
10. 愛や熱意だけではAが動かないことへの不安・怒り
11. 人と深くかかわることへの不安

## 5. 家族の解決努力

「次は、家族なりに努力してきた対応策、つまり解決努力です。先ほども言いましたが、こちらから見ると問題行動で

も、当事者側から見ると解決努力ということはよくあります。同じ行為が改める必要のある問題行動であったり、またねぎらいの対象となる解決行動だったりするわけです。

もう一つ見逃してはならないのは、成果のない解決努力を続ける家族の相互性が、結果として問題を維持する働きをしてきた可能性があるということです。そのあたりも念頭において、各班で話し合って用紙に書き込んでください」。

(各班から報告)

「皆さんと重なっていますが、私は表4のような解決努力をあげてみました」。

表4 家族の解決努力

1. 祖母と次女が母に代わって幼い子供たちの面倒を見、家を守ろうとしている
2. 初婚・再婚の際、夫と別れて祖母を頼って広島県に戻っている。いずれも、無責任な夫に子どもを任せなかった
3. 過去のいきさつはあったが、祖母に信頼を寄せている
4. 母は別れた男性とは距離を置き(初婚・再婚)、子どもたちを混乱させない
5. 母が三番目の男性と同居しなかったのは、本児を守る意図があったのかもしれない
6. 本児は、Aを立ち直らせて実家より安全な場所を自らの力で築こうとした
7. 本児は他人(A)を大切にしたい嫌われないように努力し、育った家とは違う“家族”を築こうとした。

「2～5は母の男性遍歴であり、育児の放棄です。ですが、もしかしたら母なりの、その時その場で考える最大の解決策であったかもしれません。もちろん、1のように祖母や次女がきちんと家族機能を補完しているからこそ可能となったネグレクトです。解決努力でありながら他方で問題を持続させている相互性ともいえるでしょう。

6～7は、まさに今回の主たる問題行動です。ですが、彼女にしてみれば、母親の生き様との決別という解決行動です。母から距離を置こうとすればするほど男性と近くなり、問題そのものとして持続することになっています。

いずれも望ましい行動ではないし、いい結果をもたらしてもいません。ですから、この種の解決努力に終止符をうつよう働きかけたい。そこでまず、解決行動の動機の部分、そこをきちんとねぎらうことから始めます。その後で、こうした解決策を成立させている問題理解・仮説、さらには家族の相互性に迫っていきます」。

## 6. 家族のリスクと強み(ストレングス)

「次は、家族の危うさ・脆弱性を見ます。リスクファクターを探る作業は、みなさん、熟達しておられます。特に児童相談所関係の方は、このことに敏感です。子どもの命をまもるための基本ですから。しかし、家族だって指摘されるまでもなく、自分たちの脆弱性にはナーバスになっています。つまり、援助者も家族も同じところにしっかりと意識が向いているわけです。となれば、他に目が向かず正面衝突するのも自然の成り行きといえるかもしれません。

リスクの対極にあるのがストレングスです。探せば、どんな家族にも強みはあるわけで、ただ目が向いていないだけです。援助の対象となっている家族も、もちろん例外ではありません。ところが家族はネガティブでリスクなところを過度に意識し、自分たちに強みがあるなんて信じません。それはわたしたちが歯医者に行くとき、痛い歯以外にぜんぜん意識が向かないのとよく似ています。

家族はそうであっても、援助者が同じであってはいけません。援助者には、目の前の家族にストレングスを見い出

す強い意識が必要です。ネガティブな部分をポジティブに見ることができたら、計算上プラスマイナスで2倍になるわけです。そういったことを念頭に置いて、各班でまず家族の危うさ・脆弱性について話し合っただけで記録してください」。

(各班から報告)

「はい、ありがとうございました。みなさん慣れているみたいですね、家族のリスクや脆弱性をめぐる話し合いはとても活発に行われていました。それでは、報告してくれた各班の意見に私の考えも加えて整理してみます(表5)。他にもあったかも知れませんが、漏れがあったら補ってください」。

表5 家族のリスクファクター

1. 母が今後も同じことを繰り返し、妹以下、新たな問題を起こす可能性
2. 本児が母の生き方を堂々と批判した場合、母はそれを受け止めきれず、祖母・妹次第で家族は崩壊する
3. 母に反発しつつも、自分もさほど変わらないことに気づいた場合の本児のアイデンティティの揺らぎ
4. これからも経済的には不安定な状態が続く
5. Aと引き離された後の本児のケアがなされるかどうか
6. 性虐待の問題は手つかずのままであること

「では次に、この家族のストレンクス、強みを見いだしましょう。注意深く探してください、家族援助の一つのキモですから。先ほど行ったように、マイナスをプラスに見ることが出来ないか、そのあたりも念頭に話し合ってください」。

(各班から報告)

「はい、ありがとうございました。驚くような意見もできました。表6に整理してみましたが、1番と4番は2倍ポイントでしょうね。それから、5番もいいですね」。

表6 家族のストレンクス

1. とにかくにも、生んだ子どもを見捨てず、引き受ける母であること
2. 母に代わり(黙々と)養育を引き受ける祖母・妹の存在
3. Aとのことを通して、はじめて母に翻弄されず、自分のことを自分で決める体験が出来たこと
4. 男たちに対する母の一方的な依存とは違い、Aのことを考えて行動選択した本児の成長
5. 本児のこれからについて、「人の役に立つ、人を支える」をキーワードとして使える可能性があること
6. 性虐待を打ち明けられる人と出会えたこと

「ここまで、援助対象の家族を知る作業を行いました。不安が強い場合、家族は『もし～じゃなかったら』、『もし～と言われたら』など、いろいろ予想しながら面接に臨みます。歯科の待合室で、磨き方が悪いって言われるだろうなあ、他にも治療が必要な歯があると言われたらどうしよう、抜いたら痛いだろうなあ等々、不安とともに順番を待った経験があたりだろうと思います。不安のせいで、残りの大部分の健康な歯のことなんてどこかにすっこんでいます。

また怒りが強い家族だと、『自分の苦しみなどわかるはずがない』、『どうせ自分のことを責めるのだろう、悪いのは～なのに』と身構えています。その予想通りのコースにボールがきたら、『ほら、見たことか!!』と思いきりひっぱたいたくのは至極当然でしょう。

“予想に違わず”には、未知との遭遇がない安心感があっても、新しい問題の理解も新しい解決努力もありません。

従来通り、無変化です。逆に、予想もしていなかったことに出会ったらどうでしょう。確かに最初は戸惑うでしょう。ですが、問題とされた行動を解決のための努力とねぎらわれ、思いもしなかった自分たち家族の強みを指摘され、この状況でよくやっている、それどころか既になんとかかなりつつあると、根拠をもって示されたら……。

虫歯の治療中に歯茎をほめられるところの話ではありません。一瞬混乱し、立ち止まり、そして考えます。そこが、変化への入り口です。なにかを問題として固めていた仮説が揺れ始めます。疑念や驚きや期待などさまざまなものが沸き起こり、そこからたくさんの質問が生まれます。「え？なに？それ、どういうこと？」。その一つ一つが腑に落ちて行くと、固定化していた家族の相互交流にも変化が生まれます。

尋ねたいのは援助者だって同じです。『こんなにもたいへんな状況の中 で、いったいどうやってこの程度のことですまされたのか』、『そもそも、どうしてこんなアイデアを思いついたのか』等、ぜひとも知りたいところです。こうした家族の枠の外でやり取りをすると、面接の場だけでなく、家族どうにも新たな相互作用が生まれます。そしてそれは、社会や人生に対する思い込みや決めつけ、生きてきた枠組みにも変化を及ぼすかもしれません。

ちょうどきりがいいので、「家族を知る」を終えたところで二度目の長い休憩を取ります。次は、「家族を見立て、手立てを考える」作業です。では、3ヶ月後にお会いしましょう。